

社会司牧通信



202411

★印はカトリック関連

平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスクでは、教会が社会へ発信しているメッセージや社会の中で活動する団体の情報をお知らせします。社会へのチャレンジの第一歩として、積極的にご参加ください。

★[2024年第39回「世界青年の日」教皇メッセージ\(2024.11.24\)](#) | 「主に望みをおく人は、歩いても疲れぬ」(イザヤ40・31 参照)



★[声明文「東北電力女川原子力発電所2号機の再稼働に抗議いたします」を発表しました\(2024.11.1\)](#) | [日本カトリック正義と平和協議会](#)

●外国人住民基本法の制定を求める全国集会 in 広島
日時：2024年11月17日(日) 15:00~17:00
場所：幟町教会 カトリック会館 多目的ホール
「相談活動の現場から見える在留外国人の現状とこれから」
講師：木村雄二さん RINK
(すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク)
チラシ：[外キ連0918.png \(1414×2000\)](#)
ZOOM 配信あり 申込みはQRコードから



●外国人住民基本法制定を求める全国キリスト教連絡協議会
2024 署名について (2025/1/10 締切)

小教区活動にて、ご協力よろしくお願ひします。
[\(署名用紙\)「外国人住民基本法」と「人種差別撤廃基本法」の制定を求める国会請願書 - GAIKI-KYO](#)

外国人定住基本法・人種差別撤廃基本法・難民保護法の制定を求めます。



★すべてのいのちを守る月間

『見よ、それはきわめてよかった』出版記念 講演会 報告
「社会で起こっていることを知らないだけで実は、わたしたちも繋がっているという事実を知ることから、総合的(インテグラル)エコロジーへと続くのです。」

[ラウダート・シ デスク - カトリック広島司教区「平和の使徒推進本部」](#)
ラウダート・シ デスク ホームページより、ご覧ください。



★カトリック広島教区 セクシャル・ハラスメント相談窓口★
広島教区子どもと女性の人権擁護デスク

受付時間 木曜日(祝日を除く) 9:00~16:00 電話番号 080-9795-3676
メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

外国人住民基本法の制定を求める全国リレー集会2024 in 広島

『相談活動の現場から見える
在留外国人の現状とこれから』

講師：木村雄二さん
1952年生。1983年よりタイに興味を持ち、タイ語の勉強を始める。人身売買被害者(タイ人女性)の聞き取りをきっかけに、1988年頃より在留外国人の様々な問題に関わり始め、現在に至る。現在は翻訳・通訳業。
2002年タイ国政府「Friends of Thailand Awards 2002」同僚支援者個人部門受賞。RINK(すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク)事務局長
著書「無断離脱対応マニュアル」(共著)2019年 日本加除出版社

日時：2024年11月17日(日)15:00~17:00
会場：広島カトリック会館1F 多目的ホール
広島市中区幟町4-42 世界平和記念聖堂 敷地内
駐車場は近隣のコインパーキングをご利用ください。
会場問合せ先：080-1913-3756
集会問合せ先：日本基督教団 広島東部教会(月下)
電話 082-261-2005 Eメール:hiroshimatoubu@gmail.com

○参加 無料
○オンライン同時配信
オンライン参加をご希望の方はQRコードよりお申し込みください。
<https://forms.gle/euTJWav9L6o81tG9>

共催：外国人住民との共生を実現する広島キリスト者連絡協議会(広島外キ連)
外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)
協力：日本基督教団西中国教区広島西分區・(一財)広島YWCA
在日大韓基督教会西部地方会社会部・おろろ広島教区正義と平和推進デスク

『社会構造の不正義の問題へと迫ってゆく』

-エコロジー、核兵器、原発の問題は地続きなのです -』

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 sj
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)



10月の前半には長い旅がありました。そこに一貫していたテーマはエコロジーだったように思います。

イエズス会のアジア太平洋地域の社会使徒職の会議がインドネシアのジャカルタで行われました。最終日は、この共同体がどこへと向かってゆくのか、個人で祈り、グループで分かち合いをし、イメージを絵にして発表するというセッションのファシリテーターを務めました。どのグループの描いたイメージもエコロジーが大切な課題として組み込まれていました。あるグループは川の流れのイメージ、でもそれを九十度回転させると木のイメージになります。あるグループは、共同体を木の下にある家というイメージで示しました。自然と共生するというテーマが、私たちに共通のものであることを確認しました。次に、インドネシアからフィリピンに飛びました。そこではイエズス会アジア太平洋地域の拡大顧問会議が開かれました。各使徒職のまとめ役の人たちが枠組みを超えて共通のミッションのためにどのように協力していくのかということが話し合われました。その会議の中では、ジョージタウン大学の、気候変動に詳しい教授の講義もなされました。私たちは、エコロジーについて何をしていかなければならないのかを真剣に語り合いました。私がこのインドネシアとフィリピンでの時間を通して気づいたことは、エコロジーというのは、誰か専門的な人たちが関わるという特定の人に特化された枠組み、あるいは私たちの生活の中で関わるべき課題の一部なのではなく、私たち地球に住む全員が土台として持たなければならないもの、枠組みを超えて協力していかななくてはならないものである、ということです。

そして、この長い旅の最終目的地は韓国でした。カトリック日韓脱核巡礼に参加するためです。この日韓の共同企画は、10年前に下関でイエズス会主催で行われたことを契機にその後は日韓の司教協議会が共同主催する形で続けられてきました。私もこの間ほとんどのプログラムに参加させていただく機会をいただきました。

私にとって、今回のこの巡礼への参加はとても考えさせられるものでした。今までの10年を振り返り、これからどのようにこの企画を続けていくのかということを考えながらいく先々の原発群を眺めながら時を過ごしました。『見よ、それはきわめてよかった』の中で原発の問題が取り上げられています。司教団が原発の問題に取り組む過程に寄与されてきた光延神父さんが、日本の原発の状況について講演をしてくださいました。その中ではっきりと言われたことの一つは、日本が明らかに無理のある原発推進の動きを止めないのは、核兵器を作る能力を保持したいからだということがあります。原発と核兵器の問題は明らかに地続きの問題なのです。そしてもう一つは、日本の大企業と原発推進が結びついているということです。このような根本的な経済と政治の構造に向き合っていかなければ原発の問題は解決しないし、それはエコロジーの問題も同じことなのだ、ということです。この巡礼の企画にずっと携わられてきたスタッフの方がこのように発言されました。「若い世代の人たちは正義ということを強調するのを嫌がるきらいがある。正義を主張したら嫌われるから。でも、私たちはどんなに周りから嫌われようとも正義を主張していかなければならないのだ」と。エコロジーへの取り組みの根本姿勢を問われているように感じました。広島教区は今までもまして核兵器廃絶に力を入れていきます。そしてそれと地続きでつながっている原発の問題。そして立ち上がった広島教区ラウダート・シ デスクが支えていくエコロジーの動き。これらが根本の問題が一つであることを意識して協働していく道を追求していきたいと思います。

***H·Social* *H·Social* *H·Social* *H·Social* *H·Social* *H·Social* **

『ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう～あたたかさの源泉に立ち返る（典礼活動）』

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL : 082-221-6613 FAX : 082-221-6019

ホームページ <https://www.social-desk.net/> info@social-desk.net